

01

SEGでの学びを通じて育まれた 「やればできる」という心構えが 自分の選択を成功へと導く 人生の大きな支えに

PROFILE

落合 文四郎

(おちあい・ぶんしろう)

SEGには中1の終わりに入会して数学を、高2からは物理と化学も受講。1995年3月私立武蔵高校を卒業後、同年4月東京大学理科I類に入学。2001年3月東京大学大学院理学系研究科修了後、ボストン コンサルティング グループ入社。2003年10月株式会社エデュ・ファクトリーを設立し、代表取締役役に就任。2006年4月アルー株式会社に社名変更し、代表取締役社長。現在に至る。

物理学からビジネス、そして起業の道へ 一つの領域を深く追究したくなった

古川 お久しぶりですね。落合さんは私立武蔵高校を卒業後、東京大学理科I類に進学されました。現在は起業されたアルー株式会社の代表取締役社長として活躍されています。簡単にそれまでの軌跡を教えてください。

落合 お久しぶりです。こうして古川先生とお話できるとは、感慨深いです。東大では修士課程まで進み、修了後はボストン コンサルティング グループ (BCG) に就職しました。2年半ほど経験を積んだ後に会社を立ち上げたのですが、最初に起業してから、もうすぐ22年になります。

古川 20年以上経てば立派なものです。

落合 SEGは2025年で創立44年になるのですね。95年に卒業してからちょうど30年です。古川先生の数学の授業は今でも覚えています。

古川 こちらも、落合さんは最初から優秀な生徒さんだったのを覚えています。当時、SEGに通うようになったきっかけはどんなことだったのでしょうか。

落合 友人に誘われたと記憶しています。入会したのは中1の終わり頃でした。高1までは数学を、高2からは物理と化学も受講しましたが、どの科目も楽しんで受けていました。

古川 東大理学部を卒業後、修士課程にも進学されたとのことですが、大学院では何を研究していたのですか。

落合 初期宇宙などにつながる素粒子物理学です。SEGで学んでいた頃から物理にはとても興味が有り、当時から「将来は物理学者になりたい」という夢を持っていたように思います。大学での講義も大変興味深かったので、

物理学者になるために大学院への進学を決めました。

しかし、大学院で研究しているうちに、いざそれを仕事にするとすると、なかなか狭き門であることを知りました。素粒子物理学が大好きで、毎日研究に没頭している優秀な方が大勢いる中、定職に就けるのはほんの一握り。そんな現実を目の当たりにし、一生をかけるにはリスクが高すぎると思ったのです。そこで心機一転、ビジネスの方向にシフトチェンジすることにしました。

古川 一つのことにとこだわり過ぎずに新しい道を選択し、そこで成功されたのは素晴らしい。大学院修了後はBCGに就職されたということですが、2年半で退職し、起業されたのですね。

落合 BCGでの仕事はとても楽しく、有意義でした。さまざまな大企業の課題に触れられますし、その内容も非常に知的好奇心をかき立てられるものでした。一緒に働く仲間もみな優秀で、素晴らしい職場環境でした。

ただ、コンサルティングという仕事は一般的に3カ月から半年が経過すると、別の企業の課題解決へと仕事内容が変わってしまいます。さまざまな会社の経営を見られるという面白さがある一方で、自分の中で何か一つの領域を決めて深く追究したいという思いも芽生えました。その根底には中高時代にSEGで培われた探究心があったのではないかと感じています。

古川 それで起業に踏み切ったのですね。

多くの方がより良い人生を歩むために 未来を広げる選択肢を「教育」で提供

古川 アルーの具体的な事業内容を教えてください。

落合 主に社会人向けの人材育成事業に取り組んでいます。

具体的には、新入社員研修、中堅・リーダー層研修、管理職研修などの階層別研修をはじめ、グローバル人材育成、テーマ別研修などで、企業で行っている社内教育全般を請け負っています。さらに、プログラム開発や講師の派遣なども手がけています。

教育をビジネスにする場合、やり方はいくつもありますが、私たちは「社会人教育はどうあるべきか」を常に探究することを大事にしています。現在は「ビジネスにおいてリーダーシップをどのように取るか」「今の時代にはどのようなリーダーシップが必要か」を探究中です。数年前からは京都大学と共同研究も行っています。そのことがきっかけで、3年前から京大の博士課程で学ぶようになりました。これからの時代におけるリーダーシップについて研究しており、あと半年で博士論文を書き上げる予定です。

古川 SEGで培った探究心は現在にも活かされていますね。社会人向けの教育事業ということですが、なぜその分野で起業しようと思ったのでしょうか。

落合 私は、教育は「人に選択肢を提供する行為」だと思っています。例えば、英語という選択肢を選んで学べば、日本だけでなく海外でも働けるという将来の道が増えます。さまざまな選択肢があり、その中から自分の意思で選んで自分の人生を決めているという感覚は、非常に貴重で大切なことだと思います。

実際に私自身も、大学の学部選択、大学院への進学、物理学者への道を諦める時、BCGを辞めて起業する時など、複数の選択肢の中から一つの回答を自分でつかみにいく感覚がありました。その背景にあるのは、両親からの提示はもちろん、SEGで探究する楽しさや物理の面白さを知ったことなど、さまざまな選択肢が与えられたことです。

私がそうであったように、なるべく多くの方に「未来につながる、より良い選択肢を提供したい」という思いから、この分野での起業に踏み切りました。これは弊社の基本理念にもつながっています。

古川 10年ほど前からはビジネス英会話トレーニングのサービスも始めたそうですね。

落合 はい。社会人に典型的に多いのが、単語や文法の

知識がある程度はあっても実際にはそれを使いこなせておらず英語を話せない・聞けないというパターンです。このサービスでは「話す」「聞く」を中心に、単語・文法を最低限に絞って学習し、持っている文法力をうまく活用できるトレーニングを提供しています。

振り返ってみると、私も学生時代は英語が苦手でした。今でも英語の論文を読むのに苦労しています。SEGでは現在、多読というスタイルで英語を提供していってしゃると聞きます。私が通っていた頃にはまだ多読授業がなかったので、現役生のみなさんがうらやましいです。やはり、英語多読を始める良いタイミングは中高生頃なのでしょうが。

古川 中高生など、若い頃から始めた方が効果は高くなると思います。一方で、40歳を過ぎてから英語多読を始めたがうまくいっている、という方もいますよ。英語に比較的苦手意識のある理系の方にとって、本を読みながら英語を学ぶ英語多読はストレスフリーでできる学習なので、相性が良いと思います。

落合 一般的に、生徒のみなさんはどのくらいの量を読まれるのでしょうか。

古川 1年間で50万語くらいという生徒が多いですね。中高6年間で、一般的には200万語くらいです。中には1,000万語を読む生徒もいますが、ごくわずかです。

読むスピードが遅い方もいますが、それは日本語に訳しながら読んでいるから。そのやり方ではいつまでたっても速く読めるようにはなりません。訳さずに英語のまま読むことを意識して続けていけば、読むスピードは自然に上がっていきます。グローバル化の時代、英語多読は若い方にとって必須だと思います。

SEGで得た「楽しさの成功体験」が 人生を支える自己肯定感を育んだ

古川 では、SEGについて振り返っていただきたいでしょう。SEGの授業はどのような点が印象的でしたか。

落合 数学・物理・化学のどの授業も、とにかく問題を解くのが楽しかったです。公式を一つ当てはめれば解けるという単純な設問ではなく、扱う問題の一つひとつに知





「考え続ければ何か見いだせるはず」という自信は、SEGで育まりました

やり抜く姿勢などSEGで得たことが 最初の顧客獲得までを支えてくれた

古川 起業後、「うまくいく」と確信したのはいつ頃ですか。

落合 起業して3年ほどたち、社員が20人くらいの組織になって、ある程度チームで仕事ができるようになった時ですね。「いける」という感覚が芽生えました。

古川 「石の上にも三年」と言いますからね。それまでに遭遇した一番のピンチは何でしたか。

落合 前職とはまったく異なる分野で、しかも何もないところからのスタートだったので、最初の顧客を獲得するのが一番大変で苦労しました。起業してすぐは前職のつながりで仕事をもらい、日中は下請けとして収入を得ながら、土日と夜間に教材開発など自分たちのやりたい本来の仕事に取り組んでいました。とは言え、やっとの思いで開発したトレーニングプログラムを売り込みに行っても、社名も知らない、実績もない会社のプログラムを採用してくれる企業とはなかなか巡り合えません。結局、最初の顧客を獲得するまでに約1年半かかりました。

古川 想像以上の苦労だったと思います。記念すべき最初の顧客はどのように見つかったのですか。

落合 3人で起業したのですが、そのうちの1人の友人が新興企業の人事の方で決裁権があり、頑張っている仲間を見て発注してくれました。そのおかげで、それ以降は徐々に仕事が増えていきました。

古川 そこまでの1年半、心が折れたり、仕事を投げ出したくなったりすることはなかったのでしょうか。

落合 顧客を獲得できないという事象に対して落ち込むことはあっても、事業をやめようという気持ちはまったく生まれませんでした。それはやはり「やればできる」という強い気持ちがあったからだと思います。

古川 その心構えは人生を成功に導く大きな支えになっ

ているようですね。先ほど「人生は選択肢が多い方が良い」というお話がありましたが、振り返ってみて、ご自身の選択は成功だったと思いますか。

落合 「そう思います」というより、「そう思うようにしています」が正しいかもしれません。「自分の選択は正しい」と常に思えるよう、今を生きるようにしています。物理学者になった自分は想像がつきませんが、物理を学んでからビジネスへの道を歩んだのは、非常に良い選択だったと思います。SEGで学んだことも含めて、理系で培った思考プロセスは、ビジネスの課題解決の場面でも役に立っています。

古川 SEGでは理系に進学する生徒が多いですが、狭い分野にこだわらずに視野を広げれば、人生の可能性も拡大するということですね。最後に、SEGを検討している小中高生へメッセージをお願いします。

落合 中高時代は探究心をはじめ、やり抜く姿勢など、自身の基本的な心構えが培われる時期です。大学受験を考慮したうえでそれにとどまらない学び、大学の勉強にもつながる学びができるSEGは、そのような部分をとても刺激してくれる場だと思います。私の場合、探究心や「やればできる」という心構え、多角的な考え方など、SEGで培った精神は現在にも大いに活かされています。中高生みなさんに、SEGは心からお勧めできる環境です。
古川 ぜひSEGで学んで、人生の道がさまざまに広がることを知ってほしいですね。そして、それを有効に活用してほしいと心から願います。ありがとうございました。

「継続は力なり」

SEG時代から大切にしていること

続ければ続けるほど、個人も組織も熟達します。そのために必要なのが好奇心です。好奇心が継続につながり、より強い好奇心をもたらしてくれます。

的好奇心がくすぐられました。授業では「どうやって攻略しようかな」と、視点を変えて試行錯誤しながら、ワクワクした気持ちで問題に挑んでいたことを覚えています。

古川 そういう方ほど理系に向いていますね。クラスメイトとの関係はいかがでしたか。

落合 休み時間に話をしたり、新宿駅まで一緒に帰ったりと、みんな仲が良かったです。SEGの同期とは今でもコンタクトを取り合う中で、頻度は少ないですが集まる機会もあります。

古川 それは貴重なつながりですね。

落合 はい。学生時代の友人関係は社会に出てからのそれとは異なり、利害関係なく付き合えるので、とても貴重な存在だと思います。ちなみに、そのSEG同期とのFacebookでのグループ名は、ずばり「SEG」です(笑)。通っていたのは30年以上前ですが、今でもSEGの思い出話が盛り上がります。

古川 センスのあるグループ名ですね(笑)。SEGでの経験が今に活かされていると感じることはありますか。

落合 「難しいけれど楽しい」と感じる気持ち、その先に待っている解けた時の爽快感、視界がパッと開ける達成感など、「この感覚をもっと味わいたい」と思うことで、知的好奇心や探究心が育まれたと実感しています。SEGで培った知的好奇心や探究心があるからこそ、現在の私があると確信しています。

また、SEGで「楽しさの成功体験」を何度も得たことで、「難しい問題でも、考え続ければ何とかなる」という思考スタイルが生まれたとも思っています。会社を経営するうえでさまざまな課題が目の前にありますが、「考え続ければ何か見いだせるはずだ」という自信があります。その自己肯定感、SEGで育まれたものであると言えるでしょう。

古川 生きていくうえで、自信を持つことはとても大事です。起業する際にもさまざまな困難に直面したと思いますが、振り返ってみていかがでしょうか。

落合 起業には当然、リスクがつきものです。当時、周

りからは「せっかく良い環境で働けているのに、それを捨ててまで起業するのか」という反応がほとんどでしたが、どんな言葉にも迷うことはありませんでした。周りが指摘するリスクについては、「もちろん問題は多々あるだろうけれど、考え続ければ何とかなる。やればできる」と受け止めていました。

大学受験に大いに役立ちながらも それだけにとどまらないSEGでの学び

古川 最近、生成AIの活用が増えていますが、生成AIについてはどのように考えていますか。

落合 今まさに人の働き方や役割を変え始めていると思っています。そのため、お客様とは「生成AIの時代に必要な力とは何か」「人はどのような役割を担い、そのためにはどんな力を身につけるべきか」をディスカッションしているところです。ただ、生成AIにはいい加減な面があり、万能ではありません。生成AIに適切な問いを投げかけられる力や、その答えを批判的に見られる力はやはり必要だと思います。SEGでは生成AIに対してどのように向き合っているのでしょうか。

古川 英語の例文など、短い文章を作成してもらうには便利ですが、凝った問題を作らせるには限界がありますね。もちろん、生徒が生成AIを使用することは推奨していません。

落合 私も同感です。学生のうちは「自分の力で成し遂げる」ことを積み上げなければならないと強く思っています。実社会では生成AIの活用がどんどん進んでいますが、一方で若手社員はどのように経験を積みばいいのかという問題も出てきており、社会人向けの教育業界は今、変革期にあると実感しています。

古川 「自分の力で成し遂げる」ことを積み上げるのは非常に重要です。学習面でも、単純に公式を覚えるといった作業にはあまり意味がないと思っています。

落合 SEGは何十年も前からそのスタンスを貫き、原理・原則から自分で考えて導き出すことを大切にしてくれました。私にとってはそれが授業を面白く感じた要因であり、先生方の説明も腑に落ちるものでした。物理からは特有の美しさも感じました。

古川 単純に反復練習をした方がテストで点数を取りやすいですし、これだけ勉強したのだという感覚も得られるかもしれませんが、でもそこからは、探究心はまったく生まれません。一つの問題を多角的に検討したり、その作業から問題同士のつながりを発見したりするのが学ぶ面白さであって、将来に役立つものだとは私たちは確信しています。

落合 SEGの授業が優れているなど痛感するのは、大学受験に大いに役立つものでありながらそれだけにとどまらず、大学での学びにも直結しているところです。SEGで身につけた思考プロセスがあったからこそ、大学の授業もすんなり頭に入ってきたのだと思います。

